

関西詩人協会会報

第82号
2016.7.1
発行者 有馬敵

きらめく詩行と「うボするアート」 9月2日(金)～9月14日(水)

第25回「詩画展」

主催

関西詩人協会
大阪市立中央図書館

*展示期間 9月2日(金)～9月14日(水)

*場所 大阪市立中央図書館(地上1階)

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2

Tel 06(6539)3326(係へ直通)

地下鉄千日前線または、長堀鶴見緑地線「西

長堀駅」下車7号出口すぐ

*展示作品

- ①関西詩人協会会員の作品
- ②詩と絵画、書、写真等の平面構成
- ③額装、パネル貼り等で、縦横各90センチ以内の規格で、一人一点(必ず題名をつける。必ず詩をつける)

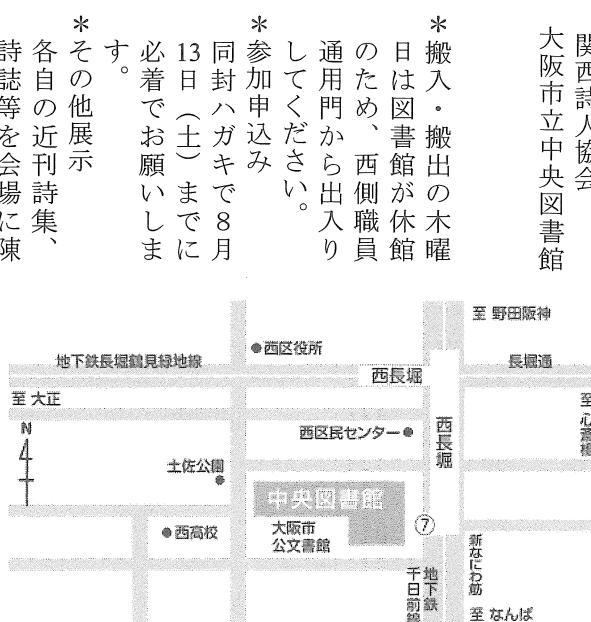
*参加費用

500円

*搬入・搬出

搬入は9月1日(木)午後2時～3時(御自分で搬入できない方は9月1日午前必着で中央図書館利用サービス担当・野村由紀様宛に送つてください)

搬出は9月15日(木)午前10時～11時、各自で撤去(宅送希望の方は、受取人払いの宅送伝票を記入の上、参加費500円を作品に添えて送つてください)



詩話会のお知らせ

わたしたちの関心は「詩」

詩についてともに語りあいましょう。

詩画展の開催中です。隣り合ったビルにありますので、詩画展も見て下さい。(上記地図参照)
開催日 9月11日(日) 13時30分～16時30分頃

場所 大阪市立西区民センター
資料代 500円(当日受付でお支払下さい)
開催日 9月11日(日) 13時30分～16時30分頃

(受付は13時)

場所 大阪市立西区民センター
資料代 500円(当日受付でお支払下さい)
開催日 9月11日(日) 13時30分～16時30分頃

場所 大阪市立西区民センター
資料代 500円(当日受付でお支払下さい)
開催日 9月11日(日) 13時30分～16時30分頃

1部 発題者 佐古祐二氏
「詩はすてきなもの! 詩の実作のためのヒント」

詩はすてきなもの! そんなことはわかってる。でも、なぜすてきなのか? 散文とはどこが違うのか。詩を経験的につくつているけど。そこで〈作品例をあげながら〉、あらためて整理してみる

佐古祐二氏略歴

1953年生れ。



日本現代詩人会会員、関西詩人協会運営委員、総合詩誌「PO」編集長。「詩人会議」「イリヤ」編集長。「軸」に所属。詩を朗読する詩人の会「風」世話人。詩の実作講座の講師。詩集『ラス・パルマス』他3冊。評論『詩人杉山平一論』『評論集 拝情の岸辺』がある。

外村文象(とのむらぶんじょう)
〒569-1029 大阪府高槻市安岡寺町
4-40-7 Tel. Fax 072-688-0490

- ①第25回詩画展と詩話会のお知らせ
- ②イベント案内「講演・演奏・朗説の午後」/詩を書きましょう/自選詩集の追加募集
- ③新会員の詩(柏原充侍・禾悠香・木立零・岡田直樹)
- ④新会員の詩(かしはらさとる・平野鈴子) /新会員の紹介(高橋俊郎・和田実恵子) /募集いろいろ
- ⑤春の行事、文学散歩の報告/H.P.報告/会員の活動/子引き孫引き/運営委員会のもよう
- ⑥会員の活動/会員の編集発行詩誌/退会者/会員の発刊詩書/団体の会報・図書

(「ことばの花火」の翻訳者)

〔英訳者の目..あれこれ話〕(ワーケーションズと共に)翻訳の時に起る「日本語」と「英語」のずれ、それを通じて出てくる「言語そのものの問題」。

それは、普通「作詩」している時にも出くわす様々な問題を気付かせるものもある。

こうした点を皆さんと一緒に語りましょう。
※出欠用のハガキの余白に五行詩を書いて送って下さい。当日参加者に五行詩を数点朗読してもらい、朗読中に「即席翻訳」します。

詩を書きましょう

四月の文学散歩の時「記念の詩を書きましょう」と言つていました処、この詩をいただきました。今後もこのような有言実行は大歓迎致します。

利休梅

あいだてるこ

関西詩人協会イベント・2016のご案内 講演・演奏・朗読の午後

日時 2016年10月8日(土)
午後1時30分～4時(開場1時より)
場所 エル・おおさか プチエル(地下)
大阪市中央区北浜東3-14
TEL 06-(6942)0001

参加費 800円

第1部 講演「体はことばを奏でる楽器です」

「心に届く朗読を、

講師 花むら てん(朗読家 吹田市在住)

朗読コンチエルト主宰

舞台朗読てん、朗読研究ことは、研

究かたりべ 大阪舞台芸術奨励賞受賞(吹田

文化功労賞受賞。著書「朗読けいこ本」他

演奏 中野喜美子(ピアノ)・立川正美

(サックス)・崎元蘭奈(チェロ)

演奏曲・タイスの瞑想曲・マスネ／チ

ヤルダッシュ・モンティ 他

第3部 関西詩人協会・会員の朗読

*「駅」をテーマにした5行詩朗読

今回朗読のプロ・花むらてんさんに、朗読の

技術的な事柄についてお話をいただきます。ま

た、さまざまなイベントなどで演奏活動されて

いる三人の演奏家の曲を楽しんで頂きたいと思

っています。さらに関西詩人協会会員による5

行詩の朗読の面白い面を感じ取つていただけれ

ばと思つていますので、会員以外のお友達もお

誘いの上、 参加して頂きますようにご案内申し

上げます。

上記の内容を参考に、関西詩人協会会員による5行詩の朗読を行つて頂きます。

イベント・2016

詩の朗読・作品募集

同封のチラシにありますように、第3部では会員による五行詩の朗読を行つて頂きます。テーマは「駅」と自由作品です、どちらでもご応募下さい。

原稿締切日9月10日

作品送付先 〒615-0821 京都市右京区西京極北裏町13-6

Fax 075-314-6459 メール z663363@yahoo.co.jp

どちらでも結構です

田村照視 宛

エル・おおさか地図



地下鉄谷町線「天満橋駅」下車
1番出口から出て、西へ300m

自選詩集第8集追加募集

自選詩集は三年に一度のチャンスです。奮つてご参加下さい。

〆切 7月末日(必着)

参加費 九〇〇円

送り先 嵐嶽京子 〒572-0827

大阪府寝屋川市萱島本町15-6 四方方

振込先「自選詩集」と明記して会の郵便口座にご送金ください。口座番号 010101084447

関西詩人協会 (詳細はチラシをご覧ください)

四月の文学散歩で

四月の雨そぼぶる
利休の里 宿院の町
音もなく走る路面電車
ビルの建ちこめるなか
そこはかとなく昔の風情を残して
バラ公園の木立のなかに
白い花弁の利休梅
凛として辺りをせいいする

その昔
男を尋ねて大和川を越えた女がいたこと

遠い記憶の底に沈んでいたなど
この地を訪ねて思い出された今
利休の住まう地であつたなど感慨深く
ひそやかに
のこり火に数滴の油をたらす

記憶の中の町

よそよそしく悲しかつた
年月をかさねた今
ことさらに優しく頬をつつむ

新会員の詩

絶望の傍で

禾 悠花

さいわい

木立
零

冬の夕べに

岡田直樹

一人でくるまつたバスタオル

柏原充侍

関西詩人協会会報第82号(2016・7・1)

冬の空が愛の意味を教えてくれた
なぜあなたは
私のもとを去ったの
それは私の為だといった
毎日が仕事に追われ 日々を駆ける
わたしと息子をつれて どこまでも
そう どこまでも
あなたについてゆきたい
あなたが仕事から帰つて
わたしと夫の時間 それは
一緒にお風呂に三人で入ること
愛の音色をギターでかなでる
ただ冬の空は二人の運命を
いつもバスタオルくるまつたとき
あなたを想い出し泣いた

息子は不思議そうな顔をしていた
「坊や あなたは自分のこころしだ
いよ」
今日も保育所にわが子をたくし
仕事という名の人生が 冬の空を色
どつた

生きる手掛けりを無くし
積み上げた物も時も失い
希望の見出せない中で
失望だけが 広がる
辛くても身体を動かせば
とにかく一日が 暮れる
悲しみの中で座つていれば
窒息しそうになるから
痛む身体に鞭打つて
箒を握りボロ雑巾をかける
舞い上がる埃 様々な傷跡を
澄き通つた秋の日差しが晒し出す

そして 石つぶてのかわりに
そのさいわいで
私は闘おう
その個性の
その光を競う舞台は
まるで
満天の星空のよう

せめて 信頼できる人が
その傍に寄り添つていてほしい
たつた一人で良いのだから
共に生きる人が居てほしい
あなたを想い出し泣いた

人と似た輝き方ができなくとも
研ぎ澄ませ磨こうとするかぎり
もしかすると独特な光線を
発する一瞬がくるかも知れない
どこかのだれかの瞳に
映るかもしれない
もしもそうなら
詩を書くことは
さいわいそのもの

冬の空が愛の意味を教えてくれた
なぜあなたは
私のもとを去ったの
それは私の為だといった
毎日が仕事に追われ 日々を駆ける
わたしと息子をつれて どこまでも
そう どこまでも
あなたについてゆきたい
あなたが仕事から帰つて
わたしと夫の時間 それは
一緒にお風呂に三人で入ること
愛の音色をギターでかなでる
ただ冬の空は二人の運命を
いつもバスタオルくるまつたとき
あなたを想い出し泣いた

生きる手掛けりを無くし
積み上げた物も時も失い
希望の見出せない中で
失望だけが 広がる
辛くても身体を動かせば
とにかく一日が 暮れる
悲しみの中で座つていれば
窒息しそうになるから
痛む身体に鞭打つて
箒を握りボロ雑巾をかける
舞い上がる埃 様々な傷跡を
澄き通つた秋の日差しが晒し出す

そして 石つぶてのかわりに
そのさいわいで
私は闘おう
その個性の
その光を競う舞台は
まるで
満天の星空のよう

せめて 信頼できる人が
その傍に寄り添つていてほしい
たつた一人で良いのだから
共に生きる人が居てほしい
あなたを想い出し泣いた

ひとつの詩が ひとの痛みに
どこまでも
寄り添つて行くことのできない
時代であるのなら
群衆のなかにとどまり
生きると強く搖さぶるために
歌いつづけたいと思う
絶え絶えになつた隣人の呴きが
たしかな歌声にかわるまで
目覚めよ、ことば
立ち上がり、ことばよ

生きる為の物 生活の糧
記念 思い出 予定
すべてを無くした現在

水が引き 土砂を拭つても
何度も襲つてくる 絶望感
絶望が町のすべてを覆い尽くす

その石を集めて
賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失わないこと

石だけは残つているなら

壊されても壊されても 石の間から

言葉を選ばずにいられない

私は詩があつた その

特別な幸いは 手放さないでいい

生きるかぎり

ゼロの特権はそれ以上失わないこと

石だけは残つているなら

壊されても壊されても 石の間から

言葉を選ばずにいられない

私は詩があつた その

特別な幸いは 手放さないでいい

生きるかぎり

ゼロの特権はそれ以上失かない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて
賽の河原で積んでも積んでも
鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない

戦力外のおまえなんかいらぬと

ぶつけられる礫(つぶて)

その石を集めて

賽の河原で積んでも積んでも

鬼に崩されゼロに帰る

ゼロの特権はそれ以上失はない

ライバルともみなされない
戦力外のおまえなんかいらぬと
ぶつけられる礫(つぶて)

世界との季節を越えて

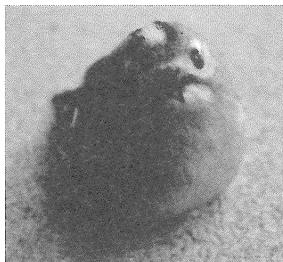
野鳥

かしはらさとる

ステッキ

平野鈴子

新入会員の紹介



関西詩人協会会報第82号(2016.7.1)

公園のいつかく
青黒い羽尾の野鳥を見かける
数十羽のハトやスズメのあいだを
ぬうようにして

ひつしにこちらに向かってくる
するどくひたむきな眼は
食べものを求めているのだ
やせて小さく汚れたからだが
よたよたと歩いている

居あわせたひとびとが　何度も
パンくずやだ菓子を投げあたえるが
ことごとく
まわりの鳥たちにとられてしまう
やつと　ひとかけらを得たが
この鳥はじぶんが食べない

なんと　くるりと向きをかえると
むれのいちばん後ろで
待っている鳥のところに急ぎ
口うつしにエサをそそぎこんだ
まるまるとしたひな鳥のくちばしに



頸椎の手術受け彼に身を預け十年以
上

ステッキは百均から何十万もするも
のまである　若く潰刺として歩き
たいもの

無地・柄物・折りたたみ

素材とハンドルの面白さも様々
スワロスキーノ散りばめた最高級品

ホテルのロビーで輝きを放ち
ディスプレイされている

セレクトショップで
素敵なかタンのステッキも目にすると
いつまでも自分の足で歩きたい

ステッキも心ひとつで楽しめる
今日はどうにしようかと心弾む外出

タシセルやファーコーをつけたり
数多くのフレグラムの中から

お気に入りの一本を見つけ出すと同
じように

見つけることも楽しい私の洒落ア
イテム

今日のお伴は黒地にシルバーの取つ
手に
赤の毛皮のボンボンつけてが私のイ
チオシ

たかがステッキされどステッキ

募集

【第18回小野十三郎賞】2015年

7月1日～2016年6月30までに発

行した詩集

締切2016年7月10日 詳しくは

大阪市中央区谷町7-2-2-305 大

阪文学学校小野十三郎賞事務局 電話

06-6768-6195



『伊藤静雄賞』 現代詩400字詰
め原稿用紙2枚以内

締切平成28年8月31日詳しくは伊藤静

雄顕彰委員会 0957-22-1103へ

文化圈の小説家や詩人たちを研究し
ています。加えて、主に帝塚山

書館司書として
35年間を務め、現在は文学講座

〒619-0237 京都府相楽郡精華
町光台7-31-3

和田実恵子(わだ・みえこ)氏
人間の苦しみ、哀しみ、寂しさ、
時には憤り、そして温もりや優しさ
を思い、心が溢れ
そうになるとき、言葉が生まれて小さな紙切れに並びます。悩む日々には、これらの小品
がどれほど私自身を慰め励ましてくれることでしょう。私のささやかな願いは、それらの言葉で誰かと心通わせ、生きる力を分かちあうことであす。

1. 主催 文学フリマ大阪事務局
代表／高田好古

お問い合わせ電話番号(代表者
携帯)：090-1478-0096
2. 日時 平成28年9月18日(日)
11時00分～17時00分
3. 会場 堺市産業振興センター
イベントホール

〒591-8025 大阪府堺市北区
長曾根町183番地5
4. 入場料 無料

〒631-0043 奈良市菅野台9-2
森山様方

関西詩人協会 春の行事『文学散歩』の報告

参加者 あいだてるこ、市原礼子、井上庚、おうえさちこ、大倉元、奥村和子、和比古、岸本嘉名男、北口汀子、木立零、近藤摩耶、榎次郎、嵯峨京子、田島廣子、田村照視、司茜、鈴部与志、外村文象、中尾彰秀、永井ますみ、苗村和正、苗村和正夫人、西きくこ、西崎想、名古きよえ、原圭治、山下俊子、吉田定一。

4月4日(月) 雨が降っていたがJR天王寺駅中央改札口に25名が集合し、10時に阪堺電車に乗った。一日有効のチケットで遠足気分。浜寺公園で原圭治、吉田定一氏等と合流し28名の参加であった。小雨は止むかと思われたが公園内のゆつたりとした東屋で、先ず原圭治氏が堺の4詩人(河井醉茗、貴志邦三、安西冬衛、伊東静雄)について説明をされ、丁寧な資料をいただいた。

次に希望者8名(おうえさちこ、奥村和子、近藤摩耶、田島廣子、永井ますみ、名古きよえ、西崎想、中尾彰秀)が詩の朗読を行つた。浜寺公園は松が美しく、桜はまだ満開で公園の奥へと進むと花壇に薔薇の芽が活々と伸び、牡丹の蕾は今にも咲きそうに膨らんでいた。12時半、レストラントンさとで昼食、一時半から利晶の杜見学、すぐ近くの利休の生家の庭、晶子生家の碑や花壇を見ながらザビエル公園へ歩き、安西冬衛の『春』の大好きな碑の前に立ち詩を口ずさんだ。3時30分、ここで解散となり希望者は住吉大社へ向かつた。(名古・記)

満開の桜の下で



関西詩人協会ホームページ <http://kpapoem.web.fc2.com/>

ホームページのアクセス数は現在月平均100件前後です。

会員の皆さんの活動情報を寄せ下さい。「エッセイ」は随時募集中です。

●会員の詩

(5月1日～7月31日)

左子真由美「わたしたちは風」
清水一郎「サクラ狂詩曲」
市原礼子「モンステラ」

(『言葉の花火』より)

●会員のエッセイ

(5月1日～7月31日)

司茜
「小さな友達からの便り」
(『風鐸』より)

2016年6月18日午後2時～5時
出席者18名
エル大阪6階
①入会者1名を承認し、退会者ゼロで、現会員数は289名。
②会員名簿の誤記訂正等につき報告。
③2ヶ月間の会計報告。
④会報82号のゲラについて検討。会報発送の際、詩画展・詩話会・イベントの各出欠ハガキを同封する。
⑤自選詩集Ⅷは、一次募集で84名の参加。二次募集の期限を7月末日とし、未参加者に声かけをして130名を超える参加を得るように取り組む。謹呈送付先リスト案につき報告。
⑥詩画展、今回は展示前に今後の広報のために作品を写真撮影することを確認。
⑦詩話会 第1部のレジュメ案配布。第2部5行詩を英訳。皆でともに詩について語り合いましょう。
⑧詩のイベント 本会計から予算5万円。不足分を参加者各自から参加費800円をいただく。会場は80名まで可能なので、お誘いあわせのうえ参加を。3部構成の企画をまとめたプログラムを作成する。
⑨総会の講師は、山田兼士会員に依頼し、快諾を得た。谷川俊太郎研究に基づいてお話をしてもう(演題は検討中)。伝統芸能の企画も。
⑩本のフリーマーケットについて検討。
⑪熊本地震への見舞について報告。
⑫自作詩朗読合評会について継続討議。

子引き孫引き
(編集部)
ヤマトコトバは情趣的な表現の言葉は細かく発達させましたが、物事を客観的に見て細かく言い分けるにはどうしても漢語を使わなければなりません。貧弱でない言語生活を送ろうと思つたら、漢語がどれだけ使えかということが一つのポイントになります。

大野晋『日本語練習帳』より

運営委員会の模様

(文責 佐古祐二)

